



若い世代入会へ創意工夫

次回総会は来年10月23日

昨年10月に開催された鳥城会総会で、吉田政雄前会長のご推挙により、今年から会長を引き継ぐことになりました。鳥城会は、関東地区在住の旧鳥取第一中学校卒業生の同窓会として1974年に発足しましたが、その後、旧鳥取高等女

校と鳥取西高等学校の同窓生が加わり、今年で47年目を迎えました。このような伝統ある鳥城会の会長に就任し、改めて身の引き締まる思いです。

私は1949年に鳥取市の近くにある栗谷町で生まれましたが、栗谷川周辺の自然豊かな環境の中で育つうち、いつしか自然科学に関心を持つようになりました。1968年に鳥取西高を卒業し、京都大学理学部に進学しましたが、入学当時、湯川秀樹博士が現役の教授を務め、その存在が教育・研究の道に進む動機の一つになりました。以来、理学(物理学と化学に跨る物性科学)の分野に関わって来ましたが、昨年に古希を迎え、教育・研究の現場から離れることになりました。今後は、微力ではありますが、鳥取西高と鳥城会に恩返しができるばと思っております。



会長 小島憲道さん

現在、新型コロナウィルスの感染が世界規模で拡大し、世界経済のみならず社

会システムにも様々な影響を与えており、未来を予測して対応することが困難な状態になっております。日本はこれまで様々な困難な出来事を経験して来ましたが、鳥城会の方々とお話しをしている中で、その時々々の困難を克服して新しい道を開拓し、最前線で活躍されている方が多いことに気付かされます。

同窓生の中で、社会人として活躍されている若い方々やこれを取り組むべき道を模索している大學生の方々にも、このことを知って頂きたいと思っております。そして、鳥城会の先輩達との交流や情報交換が大きな刺激と励みになり、また鳥城会の更なる活

発行 鳥城会事務局
 03(62667) 4550
 制作 (有) august design
 03(4405) 6258

性化に繋がって行くことと思っております。そのためには、鳥取西高を卒業した方々が鳥城会に入会し、総会での特別講演や懇親会に出席したくなるための創意工夫が必要であり、そのことが鳥城会執行部に与えられた課題であると思っております。

新執行部および学年幹事団は、鳥城会の企画に積極的な方々であり、団結して会の運営に努めていく所存です。鳥城会の皆様のご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

講演では人工衛星に関する最新技術や、これから期待される役割について、分かりやすく解説していただきます。

JAXAでは5年間にわたり、X線天文衛

人工衛星開発の舞台裏 次回講演はJAXA元客員 岡崎健さん

令和3年10月に開催予定の鳥城会総会では、JAXA(宇宙航空研究開発機構)宇宙航空研究所元客員の岡崎健(おかざき・つよし)さんに記念講演をお願いしました。

岡崎さんは昭和44年に鳥取西高を卒業され、大学卒業後は日本電気株式会社(NEC)で人工衛星の設計を担当されるなど、長年、宇宙開発部門の第一線で活躍されていきます。

星「ひとみ(ASSTR・H)」のシステムと電源系を中心とした開発に携わられました。はるか数億光年離れた巨大ブラックホールの観測や、高温ガスの激しい動きの測定を目的とする「ひとみ」の開発エピソードのほか、日本が世界に誇る人工衛星の技術が、私たちの暮らしにどのような恵みをもたらしてきたのかなどについて詳しく教えていただきます。

皆さまの知的探求心を刺激する「人工衛星開発の舞台裏」。どうぞお楽しみに。



岡崎健さん

総会報告

令和元年度の鳥城会総会は、10月25日（土）「アルカディア市ヶ谷」にてご来賓を含め総勢91名が参加し盛大に開催されました。

まず総会では、長年鳥城会を牽引された吉田政雄会長（昭和42年卒）に代わり、小島憲道副会長（昭和43年卒）の次期会長就任が承認され、続く講演会では漫画家の篠田英男さん（昭和33年卒）が



エールの大役を急遽買って出た鳥越桂さん

懇親会に先立ち山本英樹校長が文部科学省の推進するSGH（スーパーグローバルハイスクール）指定校として国際的にも活躍する母校を紹介し、また小谷文夫同窓会長からもご祝辞をいただきました。寛邦男氏（昭和30

年卒）による乾杯で始まった懇親会は、野球部の甲子園での活躍の映像を見ながら、世代を超えて杯を交わし、(株)ALIE社長岡島礼奈さん（平成9年卒）から（平成9年卒）からのビデオメッセージも届いて大いに盛り

講演報告

手塚治虫らの裏話披露 漫画家篠田さん講演

漫画家の篠田英男さんが、「今だから話せる、漫画ウラ話」と題し、手塚治虫や藤子不二雄の隠されたエピソードを語ってくださいました。2018年9月の鳥城会「第15回史跡巡り」で、漫画の聖地「トキワ荘



講演する篠田英男さん

上がりました。最後の校歌斉唱では、鳥越桂さん（平成9年卒）が急遽登壇、エールを見事に締め、無事閉会となりました。

通り」を訪れた際に、篠田さんが下積み時代も含めた思い出を披露して参加者に大受けしたことが、講演の契機となりました。鳥取西高を卒業した1958年に上京して手塚治虫のアシスタントとなり、1959年に

20歳で独立し漫画家としてデビュー。手塚治虫が住んでいた並木ハウスの部屋を譲り受け、近所のトキワ荘にたびたび遊びに行っていたことから藤子不二雄（藤子・F・不二雄）藤本弘、藤子不二雄（安孫子素雄）の両人とも親しくなりました。独立後も、藤子不二雄の「怪物くん」、「笑ウセえるすまん」、「ペラボー」などでアシスタントを務め、「ドラえもん」の発明教室や学研まんが伝記シリーズなど学習漫画でも数多くの作品を執筆されています。

唯一描き残された怪物くんが後ろ向きだったため、結局、8ページ分の原稿すべてに後ろ向きの怪物くんを描いた（単行本では、藤子不二

会員奇稿

コロナ禍、家族そして連帯

花原広明



昨年末、突如現れた新型コロナウイルスに世界中へ広がり、多くの犠牲者と共に、社会に深い混乱をもたらした。日本では今年5月に緊急事態宣言が解除され、ようやく日常が戻りつつあっても、第2波の到来に備え、人の移動に対する警戒は続いている。

筆者は半導体メーカーで経営上のリスクマネジメントのため、内部監査を行う立場にあるが、コロナ

70年前にカミュが描いた「不条理」は、コロナ禍により世界規模で現実のもの

禍のため今年度の出張を伴う監査は全て凍結され、業務計画は大幅な見直しを余儀無くされた。

ナ禍によって再び世界的なベストセラーになった。

に、漫画同様、オチが満載で、終始笑いの絶えない30分間で泡田純一（昭和58年卒）

なった。しかし世界が一つになるべき、社会の分断と国家間の対立は依然として根深い。いま我々に一体何ができるのだろうか。

感染症との戦いは、一人一人の社会との連帯を意識した行動が不可欠だ。他者への感染防止を第一に意識した新しい

生活様式が生まれ、様々な分野でコロナ後を見据えた改革の議論が進んでいる。筆者も内部監査の業務について、リモートで進める方法を検討する日々だ。鳥城の皆様も、それぞれの職務の中で議論をされているだろう。今は募る帰心を胸に納め、自分がなすべ

きことを見定めて、一つずつ取り組んで行くしかない。それがコロナ禍の克服、明日の社会につながるはずだ。

皆様のご家族や友人と再会できる日が、一日も早く訪れることを祈ります。

(ルネサスエレクトロニクス株式会社 昭和59年卒)

会員寄稿 点字翻訳を知っていますか？

榎本えり子



訳する「点訳」の活動を20年ほど前から続けています。きっかけは、新宿区の広報誌で募集していたボランティア養成講座に参加したことでした。

最初から関心があつたわけではありませんが、次第に点字独特のルールと翻訳の奥深さに惹かれていきま

目 が不自由な人たちが触つて読む「点字」。実は私たちの身近なところにあるのにお気づきでしょうか？洗濯機や炊飯器、エレベーターのボタン、電車のドアなどなど。缶ビールやジュースの飲み口には、ジュースと間違つて飲んでしまわないよう「おさけ」という点字があります。

私は本を点字に翻

点字は6つの点(タテ3×ヨコ2)で1つの文字を表します。全文かな表記で、耳で聞いた発音通りに書き表すこと、読み間違いや誤解を避けるために文節ごとに1マス空けること

など細かい決まり事があります。例えば「わたしは今日学校へ行きました」という文があるとすると、「わたしわ□□いきました」という具合です。

悩ましいのが図表やイラスト、フローチャートなどがふんだんに載った書物の点訳です。グラフに数字が書き込まれていない場合には、原本が参考にした出典にあたって調べ直すこともあります。

勉強会の先輩の指導を受けておおよそ5年後、ようやく1冊丸ごとの点訳を任されるようになります。

した。原文に忠実であることが第一ですが、「読者」は目が見えない人たち。読みやすさ、分かりやすさを自分なりに工夫する楽しさも実感できるようになっていきました。

自然科学や漢方など中国伝統の医学について書かれた本を中心に点訳を続けていたころ、点字図書館の担当者から

を感じ、私の点訳を待つておられる依頼者のことを思うと一層楽しく作業に打ち込むことができるのです。

さまざまなお本の出会い、自分の人生の引き出しが増えていくのも大きな楽しみです。まだまだ勉強中の身ですが、好きだからこそ続けてこられたのだなと思えます。

ました。やはり人の手による翻訳の方が信頼性は高いようです。

新型コロナウイルスの影響で、全国の点字図書館の多くが休館となり、勉強会も開くことができません。しかしこんな状況の中でもボランティアたちは任された点訳作業を着々と進めています。一日も早く収束して、私たちが点訳した本を待つている人たちに届けられる日が来ることを心から願っています。

(昭和44年卒)

同窓寄稿 「未来のグローバルリーダー達へ」

中嶋健人



や近年の母校の様子を伺いました。鳥取西高校がSGHの指定を受け、国際人材の育成に力を入れていく事を知り、私の国際交流と海外勤務の体験をシェアさせていただきます。

高校時代はニューヨークのインターナショナルスクールで過ごした経験から「国際化」と気構える必要はありませぬ。国境にとらわれず、視野を広げる事で自分の興味や可能性に気付く事があるかもしれない。後輩達にもフットワーク軽く、目の前のチャンスに挑戦する事を

お勧めしたいです。横浜の大学に進学後はバンドとスキー部の活動に邁進。卒業後、ミュージシャンのアシスタント等を経て、不動産会社へ入社。グループ内公募でのアメリカ・ロスアンゼルス支店勤務を決め、30歳になったばかりの冬、新天地に赴きました。

ロスは世界屈指の学術研究都市で、大学発のベンチャービジネスも盛ん。5年半にわたって、日本からの留学生や研究者、企業駐在員の方々の住まいの紹介や新生活を立ち上げるお手伝いをさせていただきました。

海外の市場や商慣習、法律の違いなどへの理解を深めながら、困ったときは基本に立ち返り、物事の本質を自分なりに整理してみることで知識や経験をカバードできたのも、高校時代の国際経験が活かされた結果だと思えます。

現在は東京で、不動産投資の計画や問題解決策を提案する業務に携わっています。お父様のご嗜好を尊重しつつ、

時に自分の意見を明確にお伝えすることが求められますが、こどもロジカルに議論を交わし、互いに有益な合意点を目指す交渉術が活かされています。海外勤務によって得られた私の財産の一つです。

改めて振り返ると「漂流型」の半生。でもその時々での決断をきっかけに、様々な人たちとのご縁に恵まれ続けてきました。地球規模での激動の時代。グローバルリーダーとしては道半ばの私の体験談ですが、誰かが前進するエールになれば幸いです。

鳥城会でお会いする先輩方からの刺激を糧に、これからも世界に活力を与えられる存在を目指していきたいです。

(株式会社エイブル 企画開発事業本部 平成11年卒)

2 019年秋、市ヶ谷・東京18年間通った故郷を出て20年。初めて参加させて頂いた鳥城会で、同門の先輩方のご活躍

を感

を感

を感

を感



在学中参加の国際交流プログラムにて

吉田前会長に旭日重光章

令和2年春の叙勲で、西高18期の吉田政雄氏(昭和42年卒)が「旭日重光章」を受章されました。吉田氏は昭和24年生まれ。古河電気工業株式会社代表取締役社長、会長を歴任し、現在は特別顧問を務めていらつしやいます。長年にわたり電線製造事業の発展に尽力し、日本の産業振興に顕著な功績が

あったことが高く評価されました。鳥城会では、第9代会長として平成27年から4年間、関東地方に在住する卒業生の交流を図り、会の活性化に積極的に取り組んでこられました。これからも変わらぬご活躍を心からお祈りいたします。山本育代(昭和58年卒)

この度の叙勲の受章に際しましては、鳥城会会員の方からも祝辞を頂き、誠に有難うございました。社長就任時の記者会見で信条を尋ねられ、「探求心」と答えました。故郷・鳥取で受けた教育に感謝すると共に、母校の更なる発展において立てればと考えています。吉田政雄

人工流れ星23年実現へ

小型人工衛星から金属粒を放出して流れ星を生み出す「人工流れ星プロジェクト」に挑戦中のALE社社長、岡島礼奈さん(平成9年卒)は、昨年末に打ち上げた人工衛星に不具合が見つかったため、次に打ち上げる人工衛星で2023年の実現を目指すこととなりました。小惑星探査機「はやぶさ」が

そうであったように、宇宙関連事業は、まさに薄氷を踏みながら進んで行く困難が伴います。くじけることなく歩み続ける岡島さんを鳥城会としてこれからも応援していきます。岡島さんから頂いたメッセージを紹介いたします。下山敏(昭和59年卒)

母校の皆様、いつも温かく応援していただいていたのですが、ご期待に沿えず申し訳ございません。鳥取人は我慢強いという県民性があるようです。これではこたれるどころかさらに闘志を燃やしております！早く鳥取の空に流れ星を流せる日を願って、頑張りますので引き続き応援よろしくお願ひ申し上げます。岡島礼奈

上野、谷根千に鳥取の面影探る 第16回史跡巡り

第16回史跡巡りは、令和元年9月29日、秋晴れの上野公園に27名の会員が集まり、国立博物館前に聳える池田藩上屋敷の「黒門」を仰ぎ見てスタートしました。武家門として最高の格式を備える重要文化財です。

続いて寛永寺根本中堂の境内に入り、上野戦争を悼む石碑に刻まれた鳥取藩兵の動向を読みました。薩摩藩兵とともに官軍側で戦っていたのです。それから谷中霊園に踏み入れ、いくつもの墓所を巡りましたが、最初に尋ねたのは明治大学創設者の岸本辰雄先生。鳥取の藩校、尚徳館に学んだ先輩です。続いて、最後の將軍慶喜公、次の1万石の顔、渋沢栄一、津山藩松平家、姫路藩酒井家などを見て歩きます。最後に、紀尾井坂で大久保利通卿を襲った6人の戒名もない墓標が立つ一



黒門前集合

画へ。谷中霊園は生前の罪に寛容です。霊園を出た後は観音寺の武骨な築地塀を覗いて、下町情緒あふれる谷中銀座を散策。全生庵で山岡鉄舟を、永久寺で仮名垣魯文を偲び、文京と台東の境の「へび道」をくねくねと歩いて、根津の串カツ屋「串猿」で宴会となりました。

未筆ながら、鳥取高女の大先輩、乾陽子さん、岩崎美重子さんのお二人に御参加いただいたことは望外の喜びでした。杉原純(昭和49年卒)

(今年の史跡巡りは、昨今の状況を鑑み中止と致しました。来年にご期待ください。)

編集後記

2年生の時、西高に転入した私。鳥取にいたのは卒業までで、高校時代の友達は、さほど多くありません。ところが去年、偶然、鳥城会のことを伺い、広報のメンバーに加えていただくことになりました。

おかげで新しい友人も増え、鳥取の魅力をあらためて実感することができました。同窓の絆はやはりいいものです。 (藤本真人 昭和58年卒)

西高は家族全員の母校で、父の職場でもありました。

「家の近くの高校」くらいにしか思っていませんでしたが先輩後輩、同級生の社会での活躍ぶりを目の当たりにしてなかなか凄いな学校だったんだと考えを新たにしております。 (下山敏 昭和59年卒)